まつさぽニュースレター　第３号

まつさぽっく

2016 年冬（1 月 31 日発行）

まつど市民活動サポートセンター

事業報告 ---------- ２
松戸の市民活動団体紹介 ---------- ４
お役立ち情報コーナー ---------- ６
市民活動学習塾【３時間目】 ------ ７
サポセンスタッフのコラム -------- ７
サポートセンターからのお知らせ -- ８



連携が生むチカラ

↑「まちづくりサロン支援企画」開催の様子（※P2 に報告記事）

連携で市民活動をもっとおもしろく！

サポートセンターには現在、約 320 の市民活動団体が届出をしています。会員が数名の団体もあれば、数百人という団体もあるなど規模はさまざまですが、会員数は 30 名以下という団体が半数以上を占めています。

会員数だけが団体の実態を表す指標ではなく、会員が少ないからといって運営に課題があるとは限りませんが、人手不足のためにやりたいことが実現できないという悩みを抱えている団体が、比較的多く見られます。そうしたとき、他団体と連携することが解決策の一つとして考えられます。

これは決して特別な発想ではないと思いますが、「連携したい団体が見つからない」「どのように話を進めたらよいのかわからない」といった理由で、連携が活発に行われてはいないという実態があります。これを受けてサポセンでは、団体同士や、団体と他の主体との連携を進める取り組みを行っています。P2 で紹介する「まちづくりサロン支援企画」もその一つですが、ご相談には随時対応していますので、どうぞお気軽にお尋ねください。連携の先には、活動の展開の可能性が無限に広がっていますよ！

◇事業報告①

「まちづくりサロン支援企画」

松戸のまちづくりをテーマとして、市民活動団体や事業者、地縁団体など様々な人たちが協働して取り組む勉強会やイベント等の立ち上げを支援する「まちづくりサロン支援企画」。まつど市民活動サポートセンターが団体と協働で取り組み、サポセンの施設活用や広報のサポートなど、担当コーディネーターが共に準備からお手伝いします。まずは一度ご相談いただき、活動のスタートアップにぜひご利用ください。以下に、これまでに行われた 2 つの取り組みを紹介します。

なないろのもり X'mas フェスティバル

・日時：12 月 5 日（土）11 時～16 時
・共催：なないろのもり
（※サポセン利用団体 8 団体が参加）
・会場：まつど市民活動サポートセンター

今回協働した「なないろのもり」は、主に子育て中のお母さんたちが中心となったグループ。おしゃべりしている中で“地域の子どもや親がそれぞれ楽しめる一日を作りたい”というコンセプトが固まり、9 月頃から本格的に出展者の募集に取り組みました。初めは小規模のものを予定していましたが、賛同者が集まり、最終的には出展者が約 30 ブースになりました。チラシは子どもたちが描いたイラストを使った温かみのあるデザインに仕上がり、約 3000 枚を近隣の小学校や幼稚園、保育園、商店、マンションなどに配布することができました。

当日は Let's 体験!!に参加した中高生たちやボランティアサークル Shake hands のメンバーである若者がボランティアとして 9 名参加してくれ、おたすけキッズと名付けた出展者の子どもたちと一緒にブースの宣伝をしたり、会場の案内をしたりするなど積極的に手伝ってくれていました。





12 時にはホール全体が子どもたちでいっぱいになり、飲食も 13 時ごろには無くなってしまうほどの盛況ぶり。ステージではダンスや英語のクリスマスソング、日本民謡、空手の演武など子どもたちが主役となる発表で盛り上がっていました。また NPO 法人チャリティサンタの協力で、サンタが子どもたちにお菓子のプレゼントをするサプライズを実施。このプレゼントは近隣のスーパーや商店に協力していただくことで実現しました。初開催で小さなトラブルもありつつ約 400 人の親子が参加し、とても人のつながりを実感できるイベントになりました。





歴史ある松雲亭でのんびりすごそう

・日時：12 月 13 日（日）10 時半～16 時
・共催：日本文化に親しむ会
（※サポセン利用団体３団体が参加）
・会場：戸定が丘歴史公園 松雲亭

まちづくりサロン企画の一つとして、“歴史ある松雲亭でのんびりすごそう”というタイトルで、「日本文化に親しむ会」との共催で開催しました。シニア世代と若者との連携事業という側面もあり、準備の段階から学生とシニアの皆さんで一緒におにぎりを試しに作ってみたり、当日のお茶のたて方を学んだりしながら進めてきました。学生にとってはシニアの方達の光る技術を教えていただける本当に良い機会になっていて、イベント当日も習ったことを発揮して、来場されたお客様に成果を見せることができる活躍の場にもなっていました。

当日はあいにくの雨でしたが、しとしと降る雨の中見る庭の景色もとても風情があり、来場した方々はゆっくり室内から眺めていました。当初は 30 名の予定だった来場者も蓋を開ければ 35 名。若い世代のお母様が多いかと思えば、飛び込みで中国からの留学生が訪れたり、埼玉の高校に通う女子高生がふらっと来てくれたりと、様々な年代層が一緒の空間で楽しいひとときを過ごしていました。

子供たちも、絵手紙や折り紙、おにぎりづくりにお茶やお琴と、普段なかなか触れることができないプロの技や作法に触れ、笑顔が絶えずあふれていました。日本文化というと敷居が高いイメージも多少あるかとは思いますが、この日は皆がゆったりとラフに文化に触れながら過ごすことができる暖かい雰囲気に包まれた一日でした。

◇事業報告②

地域活動マネジメント講座
「成果をあげる組織になるための 2 ステップセミナー」

■事業の趣旨

「メンバーがなかなか集まらなくて…」「いつも役割が偏ってしまって疲れ気味…」といった声が市民活動や NPO の現場でよく聞こえてきます。今回のセミナーではメンバーが主体的に活動するコミュニティを作ることで、団体の事業力も向上させることを目的に 2 回に渡り実施しました。

■ふりかえり

今回は「ミーティング」と「事業計画」という 2 つの具体的なアプローチから、非営利組織ならではのマネジメントを学びました。メンバーが得ているお金ではない価値、またそれらを引き出すためのコツを持ち帰ることができたのではないでしょうか。

■参加者の声（セミナーで印象に残ったこと）

・ミーティングには事前の準備が大切！！
・それぞれのモチベーションをあげるための努力をする。
・メンバーに主体的になってもらう為には会議の段取りの時点で何をやるか、やったかを見える化する。





◇ 講座の開催概要 ◇

日程・会場 等	テーマ・講師	内容
第 1 回【組織力編】 11 月 8 日(日)13:30～16:30 （松戸市民会館 301 会議室） ＊参加者：25 名	『みんなで運営する組織になるための ミーティングの「型」を学び実践する』 講師：五井渕 利明 氏 (NPO 法人 CR ファクトリー 事業部長)	・コミュニティマネジメントの特性と課題 ・コミットメントとエンゲージメント ・みんなの意見を引き出すミーティングのコツ
第 2 回【事業力編】 12 月 20 日(日)13:30～16:30 （まつど市民活動サポートセンター 大会議室） ＊参加者：11 名	『メンバーのやる気がグッと高まる 事業計画の立て方』 講師：五井渕 利明 氏 （NPO 法人 CR ファクトリー 事業部長）	・NPO・コミュニティの未来 ・NPO の事業とは/社会を良くするとは ・ステークホルダーの可視化 ・スタッフの報酬を把握する ・ドリームミーティングで作成する（みんなでつくる）年間計画

◇事業報告③

見本市のこれまでとこれから



当センターが 12 回にわたって開催してきた NPO・市民活動見本市。団体の方にとって、とても馴染みのあるイベントに成長しましたが、今年度は思い切ってリニューアルを図ることに。

見本市が持っていた「団体間の交流と協働」と「市民へのアピール」の二つの機能を切り分けて、それぞれ「みらい会議」「みらいフェスタ」と名付け、みらい会議は当センターで協働を生むグループトークを中心に、みらいフェスタは松戸駅周辺で市民に楽しんでもらうイベントとして開催します。（開催要領は最終面参照）

11 月中旬の説明会では、2 日間合わせて 60 団体以上が集合。最初は見本市がどうなるのか不安な面持ちでしたが、大方賛同の反応を得て、現在、会議に 42 団体、フェスタ 55 団体以上と申込があり、準備を進めています。1 月 14 日は両方のイベントの全体打ち合わせ会を開催。大きなイベントを一か月に 2 回開催する、ということで慌ただしい毎日ですが、この新しい取り組みにぜひご注目ください。

◇松戸の市民活動団体紹介［Vol.6］

NPO 法人 空き家安全管理ネットワーク

【プロローグ】松戸市協働事業提案制度は、松戸市の地域課題に対し、NPO など「民間」と「行政」がそれぞれの強みを活かした事業を共に汗を流す取り組みです。今号 1 つ目の団体紹介は協働事業 28 年度実施団体からご紹介します。



■「空き家」が引き起こす、地域の問題

いろいろな事情で人が住まなくなって生まれる「空き家」。「空き家」となって困るのは家主だけ、と思っていたら大間違い。もしかしたらこの記事を読んでいるあなたも当事者かも――ニュース・新聞にも取り上げられるようになってきた「空き家問題」とは。

今回インタビューを受けていただいたのは、理事長の新井さんと、企画部長の馬場さん。新井さんが活動を立ち上げるきっかけとなったのが、親友のお母さんが「問題空き家」に苦しめられた体験だ。新井さんの親友が 39 歳で若くして亡くなり、その親友のお母さんが一人残され、暮らしていたのが「問題空き家」の隣だった。同じ頃に隣家の住人が亡くなり、相続者は必要性がなかったため放置され、生まれた「空き家」。塀を越え生い茂る樹木、不審者の侵入、果てはそして 1m を越える蛇を目の当たりにしたショックも重なり、高血圧からくる脳梗塞で亡くなってしまったそうだ。この体験をきっかけに、知り合い同士、関心を持つ仲間ではじめたのが、「NPO 法人空き家安全管理ネットワーク」だ。

■空き家が侵す「防災」「衛生」

活動を始めて調べていくと、先の樹木が塀を越えて道路の視界を遮るなどの交通安全問題、猫・ハクビシンの住処、不法投棄先となったり、昨夏にも問題になったデング熱を媒介する蚊の発生源となったりと衛生面の問題を引き起こしていることがわかった。また、近隣県でも一番放火が多いのが空き家だという報告も上がっている。



←団体のユニフォームを身につけて巡回し、家ごと問題点を把握する活動

■「空き家」問題の非対称性と壁

新井さんのケースに代表されるように、空き家の所有者は「困っていない」一方、空き家の近隣で生活している人が「被害を受ける」、という側面がある。2015 年 5 月には「空き家対策特別措置法」が施行され、問題ある空き家を「特定空き家」として、行政が家主の特定と撤去・修繕、費用請求ができるようになったが、事後対処であり、行政だけで出来ることは限られる。調査報告はできても、対策が見つからないのだ。

一方 NPO として、空き家問題の大きな壁は「個人情報」だ。空き家の位置や状況がわかり、対策を取るにも利活用するにも、家主と連絡を取る必要があるが、行政からは個人情報をもちろん渡すことは出来ず、町会・自治会を通じて連絡してもらうにも、かなりの信頼関係を必要とすることとなる。

■NPO と行政の協働で、空き家活用の道を

今回協働事業で提案したのは、啓発と個別相談、またそれらを通じた空き家利活用の分析だ。空き家を地域の問題として、町会・自治会の役員に知ってもらう、そのルートを行政に依頼することで、理解者を増やし、空き家の減少につなげる計画だ。活動実績としては小金原地区での町会と連携し、外から空き家の状況を調べる外見調査をしたり、セミナーで啓発をしたりと、活動を広げてきた。4 月から協働事業で、より多くの町会・自治会関係者に空き家問題への理解を広げ、空き家の減少から街の活性化に取り組んでいく。

【団体概要】

・代表者：新井　孝（理事長）
・所在地：松戸市新松戸 1-405
　　ラフィーヌ・池田 5 番館 102
・TEL：047-321-6566
・E-mail：anzenkanri@akiya-npo.com
・URL：http://www.akiya-npo.com/

◇松戸の市民活動団体紹介［Vol.7］

子どもの未来を考える会

【プロローグ】松戸市市民活動助成制度は、新たな市民活動の立ち上げ、既存の活動の発展のため、公開プレゼンテーションを経て市が団体に助成する制度です。今号２つ目の団体紹介は助成事業 28 年度実施団体からご紹介します。



夏休みに実施した「あそびの広場」→

■熱意ある２人の投合で「こみか」は生まれた

「子どもの未来を考える会」、頭文字を取って「こみか」というちょっと可愛らしい名前の会だが、取り組むテーマは「子どもの貧困と高齢者の孤立化」と、至って真面目だ。「こみか」の活動する虹の街町会にある事務所兼居場所へ伺い、理事長の佐藤さんと、副理事長の井口さんにインタビューに応じていただいた。

活動のきっかけは、井口さんから佐藤さんへの手紙だった。中金杉から西馬橋へ引っ越し 10 年ほど経ち、町会の防災部員を務めていた井口さん。2014 年 10 月の NHK スペシャルを見て、”高齢者の孤立化の問題に何か取り組めないか”という手紙を、町会長の佐藤さんに送った。受け取った佐藤さんは井口さんと会い「高齢者は大人だからまだ自分でもなんとか出来ることもある。これからは子どもじゃないか？」と投げかける――2 人の感じる必要な地域活動が出来ないか。町会内の関心のありそうな人達に働きかけて、自らの体験や想いを出し合い、2015 年 8 月に会として立ち上げ、子どもと高齢者の交流活動が始まった。

■「こみか」の芽生えで人々が動く

佐藤さんは、10 年ほど前にも子どもに向けた活動を出来ないかと考えたことがあった。NPO 設立も視野にあったが諸事情で断念した経緯を持つ。しかし、8 年前に町会長を引き受けたこともあり、地域の課題解決に町会の立場で取り組んできた。

一方、井口さんは、お子さんが自閉症を持っていたことから学校へサポートで通う中で、教室内で夏場に毎日同じ服装をして登校する子どもがいる光景を目にする。またご自身の知り合いと、“赤ちゃんも病気の子も障がい者も一緒に過ごせる富山の「みんなの家」”の取り組みについて話す機会があり、この「みんなの家」のような場所が近くにあるといいのに、と感じたことも今の活動のイメージ作りに一役買っている（「みんなの家」は「富山型デイサービス」として有名になった）。

「子どもの未来を考える会＝こみか」としての活動は、まだ始まったばかり。昨年４月から指定管理を受けた我々サポートセンタースタッフに相談したことをきっかけに、センターの「まちづくりキーパーソン養成講座」でも仲間を募った。夏休みに 2 回開催した子ども向けのイベントでは、紙トンボやクラフトの工作・手遊び・わらべうた・カプラ・昔の話を聴く、というコーナーを設け、自由に行き来できるようにした。地域のお母さん方から高齢者も一緒になって作ったあそびの広場には、延べ 71 人が参加し、活動が必要だという実感・確信につながっている。



←居場所「こみかルーム」でのクリスマス会

■子どもと高齢者の「居場所」を生む助成活動

市民活動助成を受ける今年の抱負は、多くの人に知ってもらうこと。「あそびの広場に来た人がそこでやることを通じて、自分の能力に気づくということがあるのでは…」と井口さんは語る。それは子どもや高齢者が活動の受け手となり、支援する人がいる、という一方的な関係ではなく、子どもも高齢者も地域の誰もが自らの役割とアイデンティティを感じる、居場所があること。高齢者も昔に比べ、仕事を定年退職してから 10 年、15 年…と地域で生活しなければいけない。遊びに行く友達も無く、テレビのリモコンを持って一日中家の中で過ごす、外に行くのは買い物に行くだけ…とはならず、地域に・街の中に顔を合わせる機会、居場所があること。高齢者の今は、子どもの未来。市民活動助成でこみかの活動は飛躍の 1 年を迎える。

【団体概要】

・代表者：佐藤　良治（理事長）
・所在地：松戸市西馬橋相川町 124
・TEL：047-312-0124
・E-mail：comikamail@gmail.com

◇お役立ち情報コーナー



このコーナーでは、NPO や市民活動団体に対する助成事業、表彰事業などの募集情報、その他活動に役立つ情報をご案内します。(情報は 1 月 20 日時点のものです。)

１．現在募集中の助成金情報

分野・名称・助成団体	概要・対象事業など	募集期間・助成金額・問合せ先
【地域活性化、防災、環境】 **平成 28 年度公益助成事業** （関東甲信越） ［(一社）関東地域づくり協会］	・募集団体の目的（建設事業の円滑な推進に資し、もって国土開発の発展に寄与する）に沿った、地域活性化事業、防災事業、環境保全事業、調査研究事業、講演会事業等。 ・法人格の有無や種類は問わない。自治会、学校等、民間企業、個人の応募も可。	・2016 年 2 月 12 日締切 ・助成金額の限度なし TEL：03-3254-3691 nakagawa16@kt-chkd.or.jp http://www.kt-chkd.or.jp/photo/H28koueki.html
【自然環境保護】 **アウトドア環境保護基金** ［コンサーベーション・ アライアンス・ジャパン］	・自然が残された特定の土地や水域を、野生生物の生息地、またはアウトドア・レクリエーションの機会を確保するために保全することを目的としたプロジェクトが対象。 ・一般的な教育プロジェクトや科学調査は対象外。	・2016 年 2 月 15 日締切 ・1 団体 10 万円から 50 万円 http://ca-j.org/grants.html
【青少年、スポーツ】 **ノエビアグリーン財団助成事業** ［(公財）ノエビアグリーン財団］	・児童、青少年の健全な育成や、スポーツの発展、普及に寄与する事業。 ・特定非営利活動法人、一般社団法人、一般財団法人などで、設立後、3 年以上の活動実績を有すること。	・2016 年 2 月 29 日締切 ・1 団体上限 100 万円 TEL：03-5568-0305 info@noevirgreen.or.jp http://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm
【社会福祉】 **2016 年度地域ささえあい助成** ［日本コープ共済 生活協同組合連合会］	・「くらしを守り、くらしの困りごとの解決に資する」「命を守り、その人らしい生き方ができるようにする」「女性と子どもが生き生きする」のいずれかに該当する活動。 ・生活協同組合、または NPO 法人等。ただし、生活協同組合と NPO 法人等が協同した取り組みであること。	・2016 年 3 月 5 日締切 ・1 団体上限 100 万円 （総額 2,500 万円） TEL：03-6836-1320 contribution@coopkyosai.coop http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/2016.html

２．松戸市「協働事業提案制度」「市民活動助成制度」関連情報

☆ **<u>平成 28 年度実施分の審査結果について</u>**

昨年中に募集のあった、平成 28 年度実施分の「協働事業」と「市民活動助成事業」プレゼンテーション・及び本審査が行われ、協働事業 3 事業、市民活動助成 10 事業（スタート助成 7 事業、ステップアップ助成 3 事業）が採択すべきとされました。審査結果の詳細は、以下の市のホームページでご覧いただけます

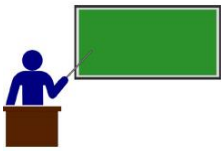
＊「協働のまちづくり（市民活動の活性化と協働の推進)」のページ
http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/index.html
→「協働事業提案制度」または「市民活動助成制度」を選択
→各ページに「協働事業審査結果」と「市民活動助成事業審査結果」(PDF ファイル）を掲載

◇ 問合せ先：松戸市市民部市民自治課（TEL 047-366-7062）

※審査を通過した団体のうち、2 つの団体の取材記事を「松戸の市民活動団体紹介」のコーナー（P4,5）に掲載していますので、どうぞご覧ください。

◇影山コーディネーターの「市民活動学習塾」【3 時間目】

シビックプライド



皆さんこんにちは！コーディネーターの影山です。大寒は過ぎましたが、まだ寒さの厳しい日が続いています。皆さんはどのようにお過ごしでしょう？

さて今回は、シビックプライドをテーマに話していきたいと思います。皆さんは「誇りの空洞化」という表現を聞いたことがあるでしょうか？現在の日本では田園回帰という傾向が強まっています。これは都市から地方へ移住することであり、高度経済成長期における日本の都市化と逆の動きと言えます。こういった動きは地域で過ごす人々が自分自身の誇りを、そして自分の住むまちに対する誇りを都市では感じにくくなっているからと考えられます。その誇りを取り戻すために、自分自身の存在が強く実感できる地方に向かう流れが起こっているのでしょう。このような地域に対する様々な面での誇りの欠落を「誇りの空洞化」と呼んでいるのです。

ともすれば地域活性化の一つの成果指標として、住民がどれほどそのまちに対して、そしてそのまちで過ごす自分に対して誇りを感じているかという事が大きな答えの一つになるのではないでしょうか？こういった数値ではない活性化の一つの指標が「シビックプライド」、直訳すれば「市民の誇り」です。昨今では KPI（重要評価指数）などを設定し、街の活性化をなんとか数値として表そうとする動きもありますが、なかなか活性化している状態を数値に表すことは難しいのが現状です。「シビックプライド」は確かに目に見えるものではありませんが、街の状態を表すとても重要な要因であることは間違いありません。

今までの活性化は交流人口や移住・定住者の増加、各市町村等への経済効果などを目指すものが多くありました。もちろんこれらも必要な要因ではありますが、これからの活性化への取組の中に、そのプロジェクトがそこに住む市民にとって、自分の住んでいる街に「誇り」を持てるものであるかを考えていく事も必要なのではないでしょうか？

☆参考文献：
「シビックプライド2−都市と市民のかかわりをデザインする」
（シビックプライド研究会　編著、宣伝会議）

◇サポセンスタッフのコラム

ボランティアが危ない？



ボランティア活動は、すっかり社会に浸透してきました。多くの市民団体の活動は、ボランティアがあってこそ成り立っているとも言えます。

一方で、ボランティアにまつわる“おかしな話”を見聞きすることも増えてきました。特に気になるのは、営利企業によるボランティア募集です。社会貢献活動に対するものであれば話は別ですが、事業のスタッフをボランティアでまかなおうとしているようなケースも見られます。実際、松戸における話ではありませんが、営利企業が開催するセミナーの運営スタッフを、無報酬で（そのセミナーを無料で聴講できることを特典（？）として）募集している例がありました。これは極端な見方をすれば、無償労働者を募集していると言えるのではないかと思います。

近年、株式会社がソーシャルビジネスを行うといった例もあり、営利企業が募集するボランティアのすべてを“おかしい”と言い切ることは適切ではないでしょう。しかし少なくとも、従事する活動が公共目的のために行われるものであるかどうかは、重要なポイントだと思います。

もう一点気になるのは、専門性の高い業務をボランティアに依存する傾向が見られることです。「プロボノ」という概念も普及しており、自分の得意なことを活かして社会貢献をしようと考える個人が増えることは素晴らしいことだと思います。ですが、それを職業としている人がいるような業務をボランティアに依存すると、場合によっては、人の仕事を（生活を）奪うことにもつながりかねません。例えば、オリンピックにおける通訳なども、ボランティアを前提にすべきではないと私は考えます。もちろん、世界的なイベントに貢献できるといったメリットもありますし、多角的な視点から論じる必要があるので、賛否はあろうかと思いますが…。

ネガティブな論述を並べてしまいましたが、ボランティア活動を通じて、日常ではできない体験ができたり、新たな知見が得られることは間違いありません。そうした魅力にとりつかれてしまうなど、良い意味での“危なさ”もあるので、ボランティアをしてみようと思っている方は注意しましょう！

（コーディネーター　原田 正隆）

◇サポートセンターからのお知らせ

センターの主催事業や講座・イベントのお知らせ、施設利用に関するご案内などのトピックスをお伝えします。なお、場所について記載がないものは「まつど市民活動サポートセンター」にて開催します。

■ 主催事業・イベント情報

●地域活動マネジメント講座～経営力編～

「クラウドファンディングのはじめ方」

＊2 月 21 日(日) 13 時半～16 時半
（※15 時半からは個別相談）

＊定員：申込み先着 30 人

インターネットを通じで広く支援金を募るクラウドファンディング。その国内最大サイト「READYFOR」の大久保氏を講師に招き、基本の仕組みから効果的な広報の仕方について、事例を交えてお話しいただきます。

●第 13 回 NPO・市民活動見本市

「まつどみらい会議＆みらいフェスタ」

『まつどみらい会議』3 月 5 日(土) 10 時～16 時半
まつど市民活動サポートセンター 多目的ホール
＊市民活動に取り組まれている団体同士や市民、行政、企業との協働など、パートナーを見つける

『みらいフェスタ』3 月 26 日(土) 10 時半～15 時半
松戸駅前（西口デッキ、伊勢丹前広場、西口公園）
＊人通りの多い駅前に団体が出向いて出展をし、普段団体に関わることの少ない市民に活動を PR する

※詳細は、ホームページに随時情報を掲載いたします。別途チラシを作成、配布もいたします。

●ＮＰＯ・市民活動よろず相談室

毎月 1～2 回、市民活動に関する専門的なテーマを設定して、無料の個別相談を実施しています。2・3 月の日程・テーマ等は以下のとおりです。予約制ですので、お申し込みの上お越しください。

＊2 月 10 日(水) 10 時～20 時
「活動を発展させる資金調達編」
（※上記の時間の内、1 人 50 分。定員 5 人）

＊2 月 28 日(日) 13 時～16 時半
（13 時～：講義、14 時半～：個別相談）
「30 分 0 円でオシャレに出来る WEB サイト」
（※定員 20 人。個別相談は先着 4 団体。）

＊3 月 10 日(木) 13～16 時
「初心者向けパソコン相談」
（※13 時,14 時,15 時～、各 50 分。定員 9 人）

■ NEWS＆トピックス

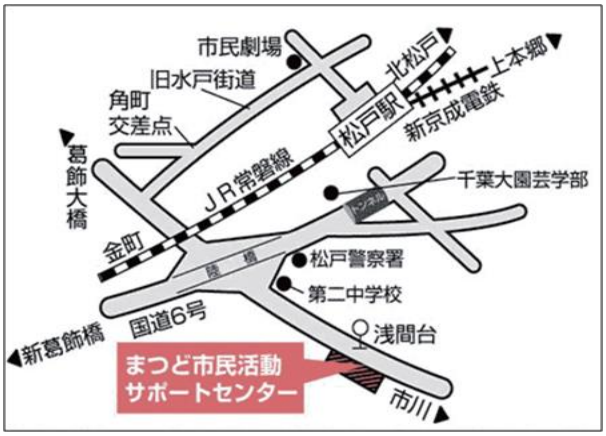
●ホームページで届出団体情報を公開中

センターの利用届出団体の情報の、ホームページへの公開を始めました。（トップページ右上の「届出団体」をクリックするとご覧になれます。）“掲載希望”として届出をされた団体の方は、内容のご確認をお願いいたします。なお新規に届出をされた団体は、情報掲載まで少々日数をいただきますことをご了承願います。

まつど市民活動サポートセンター

ニュースレター **ぽっく** [第 3 号]
発行日：2016 年 1 月 31 日（※年 4 回発行）
発行元：まつど市民活動サポートセンター
（指定管理者 まつど NPO 協議会）

〒271-0094 松戸市上矢切 299-1（総合福祉会館内）
TEL：047-365-5522 FAX：047-365-5636
E-mail：hai_saposen@matsudo-sc.com
URL：http://www.matsudo-sc.com/
facebook：https://www.facebook.com/matsudo.sc



◇開館時間
月曜～土曜：9:00～21:00、日曜：9:00～17:00
◇休館日：第 1・第 3 水曜、年末年始(12/29～1/3)

《編集後記》NPO や市民活動・ボランティアに関する書籍を少しずつ増やしています。来館者の皆さんに自由に閲覧していただけるよう準備中ですので、ご期待ください！／個人的な事ですが、パソコンの OS を Windows10 にアップグレードしました。ちなみに、自宅のネット環境が脆弱なせいか、どうしても途中で止まってしまい、結局あきらめて専門店に作業を依頼しました。痛い出費です…。[は]